

ブック村だより

本学コレクション紹介 (19)

J.S.ミル『自由論』1859 ②	森岡 邦泰(1)
本を介しての子ども時代との再会	前田 啓一(2)
ぶっくす・なう	(4)
『ちびの聖者』	谷岡 一郎
『一枚の絵から：日本編』	塩田 眞典
『ごっつい奴』	佐和 良作
『ローマの街角から』	下山 晃
選書スタッフ交流会報告	(6)
情報を入手する ①図書を探す	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



北京大学学長時代(60歳)の嚴復(啓蒙思想家、翻訳家 1854-1921年)

本学コレクション紹介 (19) J.S.ミル『自由論』1859 ②

ミルの『自由論』を初めて中国語に訳した嚴復は、Libertyに相当する中国語はないが、『論語』の「恕」(思いやり。「己の欲せざるところ、人に施すことなかれ」)や『大学』の「絜矩之道」(思いやり)がLibertyに対応する概念で、Libertyと同じ価値を持ち、似た役割を果たしたと考えた。しかし日本の翻訳者は「自由」という訳語でLibertyをとらえた。

「自由」という日本語は日本書紀以来ニュアンスの変遷を伴って使われたが、元来中国の『後漢書』に由来する言葉である。18世紀に11歳で漂流

してロシアのサンクトペテルブルクへ送られた薩摩の少年ゴンザは、19歳から20歳で最初の露和辞典(『新スラヴ日本語辞典』)を編纂した。そこでは英語のLibertyに当たるロシア語с в о б о д аがさらりと「自由」と訳された。さらに幕末に出た英語の辞書でもフランス語の辞書でも「自由」という訳語が使われた。他方、中国語の方では19世紀の『英華字典』が「自主之理」のほか「自由得意」という訳も載せてはいたが、訳語はさまざままで一定していなかったようである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

本を介しての子どもとの再会

灰谷健次郎『灰谷健次郎の保育園日記』

(新潮文庫, 1990年2月, 360円)

経済学部 教授 前田 啓一

*以下は、同人誌『足跡(そくせき)』第16号(1990年5月25日発行)に掲載された私の文章を転載したものです。京阪神を中心とする20名くらいを同人とする本誌は年4回発行の、ワープロ打ちした原稿をそのままコピーしホッチキス留めにしただけのきわめて粗末な体裁のもので、私自身は短期間このメンバーでもありました。もとより緩やかな集まりであったので、私がいつから参加し、またいつごろに脱退したのかも記憶に定かではありません。

昨年に家族の中でちょっとした出来事があったので、この文章を昔に書いたことを思い出しました。今回、原稿のご依頼をきっかけに、埃を払って20年も前の文章をそのまま転載することといたしました。お許しください。

通勤電車の中で目頭が熱くなった。そういう本に久しぶりに出会ったような気がする。

家の書棚の片隅には鹿島和夫さんの『1年1組せんせいあのね』があったし、灰谷さんの名前と彼が児童文学者であることくらいはかろうじて知っていた。この「足跡」第15号で、灰谷さんの『とんぼがえりで日がくれて』が紹介されていますが、私はその本の名を聞いたこともないし、これまで灰谷さんの本を読んだこともない。

ところで、わが家は夫婦と娘2人の4人家族である。今年4月によく下の娘が小学校へ入学した。上の娘と合わせると都合8年間も保育園へ通園したことになる。家からやや遠かった保育園

までの送り迎えから“解放”されたややホッとした気持ちと、親子が一体となって生活していく幼児期が終わったのかも知れないという何やら寂しい感情に駆られてこの本を手にした(もちろん、そういった思いは妻のほうが私より何倍も強いことでしょう)。

遠くの保育園に預けざるをえなかったのは、上の娘の入園当時(3才)、私自身がまだ定職に就いておらず妻がパートタイマーとして働くといった「保育に欠ける状況」にあったにもかかわらず、福祉事務所によって第1～第3希望まではねられたためです。そして、結果的には新設されて2年目のその保育園に私的な園長契約というかたちで受け入れてもらうこととなりました。一方、下の娘は生後10ヶ月で入園することができました。つまり、福祉事務所を通した「措置」児としての入園が許可された訳です。というのも、その頃には私たち保護者の側が入園についてのテクニックを身につけた結果であって、福祉事務所サイドでの基準がゆるやかになったためではないようです。(断っておきますが、保育園児は通常、家庭での「保育に欠け」、福祉事務所が入園の条件を満たしていると判断した場合にのみ、優先順位がつけられ順番に「措置」されて入園を認められることとなります。僕はこの「保育に欠ける」とか「措置される」という言葉の響きには背筋がゾッとするものを感じます。)そこには、子どもが母親の手元でのみ育てられるのが最善で、しか

も“保育”にかかわる経費をできるだけ削減したいとの行政、すなわち総資本の論理がまかり通っていると云わざるをえません。

灰谷さんもこの用語に対する嫌悪の念をこの本のなかで述べています。しかし、彼は私のように不満を漏らすにとどまりません。

「子どもを真ん中にしてなにかおもしろいことをやりたい」との思いから、彼は志を同じくする人たちとともにユートピアを創ろうとします。そのようにして、「太陽の子保育園」が生まれました。

「子どもを中心にした真に人間的な共同体」を創ろうとするこの試みは、子どもに教えたり子どもを導いたりするのではなく、「幼いのちの成長に添おう」とする人たちによって、まさに子どもと保母・保父そして保護者が共に学びあう世界の創造でもありました。目の前にいる子が悲しんでいたり苦しんでいれば、その悲しみや苦しみを共に背負うことのほうが先で、教え導くことはそ

れからあとでよいという灰谷さんのこの言葉ほど私をハッとさせたことはありません。子どもに対して僕は常に強圧的でしかりつけてばかりいました。そこには子どもの成長に添って共に歩むという考えは微塵もありませんでした。

目から鱗が落ちるとはこのようなことを言うのでしょうか。この本はいたるところでそのような輝きをもっています。私の八年間の保育園時代のもっと早くに出会っておればとの思いにかられています。



「灰谷健次郎の保育園日記」は、図書館2F「ブック村」コーナーに配架しています。

『ちびの聖者』

(河出書房新社, 2008.7)
 ジョルジュ・シムノン 著,
 長島 良三 訳

シムノンといえば、「メグレ警視シリーズ」が有名で、発行部数は総計五億冊を超えるという。そのシムノンが1989年に死去した時、ニューヨーク・タイムズが100を超えるシムノンの著作の中でベストに選出した2作のうちのひとつが本書、『ちびの聖者』である。

パリの貧しい露天商に3人めの子供として生まれた主人公のルイは、実はシムノン自身。この自伝的（モチーフが自らの経験に従ったもの）な小説は、20世紀前半のパリの大衆、特に貧しい人々の生活を生き生きと描き出している。読者は空気やにおいまで感じるに違いない。そして現代日本の文化的な生活レベルに、改めて感謝するだろう。

どんなにいじめられても、ニコニコとおとなしいルイは、背が低いこともあって、まわりから

「ちびの聖者」と呼ばれる。生まれつきの頭の良さにもかかわらず、進学をあきらめ、いろいろな経験を積むことになる。

大学を出ていなくとも、一所懸命に生きておれば、シムノンのように作家として成功することもできるのだ、ということを知ってほしいのである。登場人物では何と言っても母親がいい。古き良き時代の哲学（生きざま）を持った、人間味あふれる人物である。

今回、河出書房新社から復刊されたシムノンの著作は、『ちびの聖者』以外にもうひとつある。陪審員制度をもとにした『証人たち』というミステリイだが、こちらも大変おもしろい。絶対のおススメだ。

(学長 谷岡 一郎)



『一枚の絵から：日本編』

(岩波書店, 2009.11)
 高畑 勲 著

本書はスタジオジブリのアニメ映画監督、高畑勲氏による絵画論である。二冊セットで海外編と日本編からなるが、あえて後者を取り上げたのは、わが国にはどうやら漫画の文化遺伝子らしきものが古来より引き継がれているのでは、というところを明白に分らせてくれるから。氏の取り上げる絵画は「伴大納言絵巻」から横尾忠則や男鹿和男の作品にまで及ぶ。一枚一枚の絵に付けられたコメントが、映像作家ならではの視点が感じられとても面白い。例えば氏は広重の絵にカメラ無き時代のカメラアングルを読み取ろうとする。それは今日でいえば、B級アクション映画でおなじみのパンフォーカスカメラによる縦の構図なのである。

佐伯祐三がパリから帰国した後に描いた日本の

風景画は、従来の評価では靈感を欠いた作品だと否定的に語られがちであったが、高畑氏の見解はそれとは異なる。おおよそ絵画的とはいえないう日本の日常的景観に真摯に向き合う佐伯の姿勢を氏は高く評価する。これは私には卓見だと思われる。

本書は大版ではないものの、図版自体は大きくとられており、見やすいし装丁も洒落ているので、所有したくなる。最後に30作以上に及ぶ作品の中、オマエの好みは、と問われるならば、狩野長信の「花下遊楽図屏風」と答えたい。常日頃、歌舞音曲に現を抜かしたいと願っている私としては。ぜひご覧下さい。

(経済学部 教授 塩田 真典)



『ごっつい奴』

(講談社, 2010.1)
江上 剛 著

題名から想像できるように、大阪を舞台にした物語である。軍隊に入れば腹いっぱい飯が食べられると考えた、主人公丑松^{うしまつ}は海軍に志願した。終戦後、梅田の近くで食堂を経営する戦友を訪ねた。

戦友宅に居候するうちに自分も商売をしたいと考えた丑松は、戦争で親を亡くした子供たちと化粧品などの闇物品の販売に進出した。もの不足の時代、売り上げは好調を続けたが、警察の闇物品に対する取り締まりが厳しくなり、方向転換を迫られることになった。

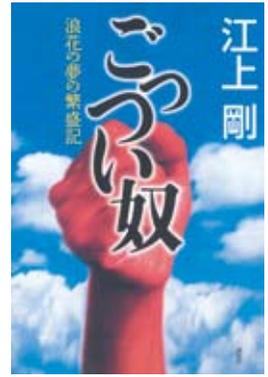
しかし、この間丑松は商売に対する大切な考えを会得した。引用すると、「親を亡くし、希望を失っていた子供たちと商売をするうちにみんなの目が輝き始めた。それは人が喜ぶ顔を見ることに喜びを感じ始めたのだ。商売というものは人に喜

びを与えるものなのだと思う」。また、高利貸しに金融業の使命はまっとうな商売人を助けることだと気付かせるなどの話も盛りこめられている。

土地・建物の所有権をめぐるの紆余曲折の後、戦友が経営していた食堂をビルに建て替え、5階建ての和食、中華などの食堂を中心とした事業を展開することになった。

馴染みのある地名、聞き慣れた言葉などがいたるところに出てきて極めて読みやすい本である。なお、著者は銀行出身で、今やビジネス小説の第一人者であり、本欄でこの著者の本を紹介するのは2冊目である。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『ローマの街角から』

(新潮社, 2000.10)
塩野 七生 著

1970年代以来、タバコ会社に対する弁護士団のタカリと宗教原理主義運動などから横行しはじめた禁煙運動という「正義」が世界中で広まっている。排除と隔離と差別を伴う運動である。本学でも2010年4月から、喫茶室でさえ禁煙という不思議なことになった。大学という、世の「トレンド」とは距離を置いて諸説や科学の根拠・意義を求め吟味する筈の〈最高の学問機関〉でも、日本全国一斉に右へならへ！の翼賛体制(R・N・プロクター『健康帝国ナチス』、鶴見俊輔、養老孟司等を参照)である。東京では既に新興宗教運動の様相を呈しており、道路の石畳や商店街の立て看板の「禁煙」の呪文の中を、つるんとした表情の人びとが何のふれあいも無く忙しそうに行き交っている。タバコを売ってひっそりと老後の生活を成り立た

せていたお婆さんのことなど、〈インディアンの文化と同様、無かったこと〉になってしまっている。

ローマ2000年の興亡の歴史を見渡す塩野さんの手になる本書は、町を一律に呪文で飾ってゆくことに躍起になるような空疎なことより、もっと他に幾らでも大切な共通問題があるのではないの？と痛感させてくれる筈。学内に「禁煙」のポスターはあっても、「年金問題」や「基地問題」「証券会社規制」「介護」「改憲」といった、国家存亡に関わる諸問題についてのポスターがひとつも見られないのは一体どうということだろう、とタバコを一服^{くゆ}燃らせながら考え込んでしまう次第である。

啄木の ふるさと過ぎぬ 花煙草 大木さつき
(総合経営学部 教授 下山 晃)



『選書スタッフ交流会報告』

昨年12月25日(金)、第1回学生選書スタッフ交流会を実施しました。

スタッフが一堂に会するのは初めてです。

最初の自己紹介は緊張した雰囲気の中で行われましたが、そこから、お忙しい中参加下さった海堀館長のお話に興味深く耳を傾けたり、履修情報の交換で盛り上がるなど、暖かい雰囲気のなかでの進行となりました。

今回は貴重な「学生さんの生の声」を集めるべく、図書館員も参加し、おそるおそるホームページや館内設備・防犯対策などに意見を求めた所、

- ・携帯版で、大学ホームページから図書館ヘリンクを付けて欲しい。
- ・犯罪学専門の教員に、(防犯対策の)アドバイスを受けてはどうか。
- ・OPAC操作に慣れれば便利なので、パソコンを目につく位置に移動させてはどうか



卒業生の高瀬千尋さん、矢野雅基さんです。4年間を通じて積極的に参加頂き、貴重な意見も沢山頂きました。高瀬さんは学生アルバイトとしても活躍してくれました。今後も卒業生として図書館を訪れてくれるそうです♪

- ・選書ツアーをもう一度実施して欲しい
- ・選書ツアーの時間を延ばしてほしい
- ・小説や資格などの棚には、遠くから見える目印を付けてほしい。

など、幅広い視野から良い意見が次々と出され、白熱した時間の中、あっという間に予定時間が過ぎていきました。帰りがけに、(交流会直前に行った)選書ツアー図書が納品されているのを発見して、自分たちの選書について語り合う彼らに頼もしさを感じられました。

交流会で、卒業するスタッフから出た要望を受け、昨年度最終の選書ツアーおよび交流会を難波で行いました。ここでも選書や交流に、全員が生き生きと参加していました。



ほか、

- ・OBPコースに部活に、引っ張りだこの西川さん
 - ・同じくOBPコースに広報学生スタッフに、引っ張りだこの杉山さん
 - ・昨年度より同好会に昇格し、学内外で注目を集める活動を展開中の「投資研究同好会」代表阿部さん (USIC副代表)、副代表の人見さん
 - ・地方公務員ストレート合格という快挙を成し遂げたあと、最後のツアー・交流会に参加頂いた吉嶋さん
- といった、壮々たる顔ぶれが揃いました!

情報を入手する ① 図書を探す

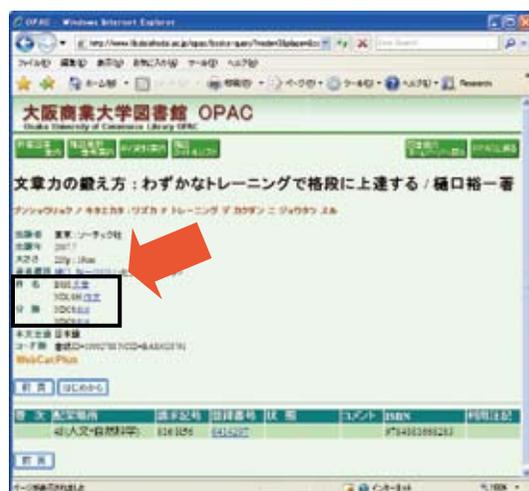
新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新生活を楽しんでおられますか？
今回は、実際に図書館に寄せられた質問をもとに、図書館活用例をご紹介します。

サークルのPRをするのに、フリーペーパーを作りたいが、とりあえず作文がとても苦手。基本的な文章の書き方を学びたい。

文章作成の技術は、レポート作成や社内文書作成など、いろいろな場面で必要とされます。彼の場合はサークルをアピールできるような文章を書くことが目的です。この図書館に手助けとなる資料があるか、探してみましょう。



「蔵書検索」メニューのトップページです。中央の検索窓に「作文」と入力すると、267件の図書がヒットしました。検索結果のタイトルを見ていくと、「作文」と名のつく「英作文」「論文・レポート」「就職試験対策」などがヒットしています。タイトルを順に見ていったところ、彼は『文章力の鍛え方』というタイトルが気になったようですので、クリックします。



『文章力の鍛え方』という本に関するデータが表示されました。画面下部には館内の所在も表示されていますので、この本を探すことは可能ですが、他に似た本は無いか、探してみましょう。

そこで必要になる情報が、画面中央「件名」と「分類」です。

件名 BSH:文章
NDLSH:作文
分類 NDC8:816
NDC9:816

「件名」とは、「本の内容から引けるように分類した項目の名」です。（『デジタル大辞泉』より引用）件名「文章」「作文」の2語を、あらためて検索窓に入力し、「掛け合わせ検索」を行うと、「作文」のみでは267件あったリストから、「文章の書き方に関する39件を絞り込むことができました。

「分類」は、図書館の規則に従い、分野ごとに割り当てられた番号のことです。

図書館ではこの番号順に本が並べられています。「816」は「作文・文体」に対応しています。もちろん、『文章力の鍛え方』もここに分類されていますので、この本が並ぶ棚の周辺で、参考になる本を探してみましょう。

図書館インフォメーション

◆特設コーナー『新生活応援Books!』をご活用ください

新生活の「居」「食」「住」に役立つ図書を、2階特設コーナー（図書館入口付近）に展示しています。自炊のためのレシピや、ひとり暮らしのための安全ガイドなどがあります。是非チェックしてみてください。

◆2009年度「ベストリーダー」発表！

- 第1位 石田健著『1日1分！英字新聞』（祥伝社、2003.7）
- 第2位 溝上幸伸著『無印良品VSユニクロ』（ばる出版、2000.9）
- 第3位 よしたに『ぼく、オタリーマン』3（中経出版、2008.3）
- 第4位 ジェフリー・ジョーンズ著；安室憲一、梅野巨利訳
『国際経営講義：多国籍企業とグローバル資本主義』（有斐閣、2007.4）
- 第5位 東野圭吾著『聖女の救済』（文藝春秋、2008.10）

利用者のベストリーダーは、**学生選書スタッフ 杉山 祐脩さん**（OBPコース3年）でした。

◆平成21年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。（50音順 敬称略）

※配架場所は「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

- 【飯田耕二郎】『近畿を知る旅：歴史と風景』—京都：ナカニシヤ出版、2010.1.
- 【加藤 眞吾】『黒船の行方：アメリカ文学と「日本」』—東京：英宝社、2009.11.
—（龍谷叢書；21）.
- 【齊藤 豊治】『新経済刑法入門』—東京：成文堂、2008.12.
- 【塩田 眞典】『市場・企業・企業者精神』—京都：晃洋書房、2010.1.
- 【島田 恒】『非営利組織のマネジメント：使命・責任・成果』—新版。
—東京：東洋経済新報社、2009.7.
- 【下山 晃】『地球環境史からの問い：ヒトと自然の共生とは何か』
—東京：岩波書店、2009.10.
- 【中津 孝司】『欧州新時代：6億人のEUとビジネス』—京都：晃洋書房、2010.1.
- 【長妻三佐雄】『ナショナリズムの時代精神：幕末から冷戦後まで』
—奈良：萌書房、2009.11.
- 【藤本 清一】『ビジネス簿記入門：日商簿記3級受験対応：会社実務に活かす！』
—第4版。—東京：税務研究会出版局、2009.7.

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日を設定場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。

詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第36号

平成22年5月31日発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

電話 (06) 6781-5280

FAX (06) 6781-0089

e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp

ホームページアドレス: <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928